

バス停タイムス

2017年7月21日

No.41

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

労働条件改善を求めて SEKと団体交渉を開催します！

労働強化を許さず、健康で働きがいのある職場にしよう！！

私たちJR東海労は、組合員が出向しているSEK会社とSMT会社に対して、「労働条件の改善」を求めて6月13日に団体交渉を申し入れました。その結果SEKについては7月27日に開催することが決定しました。

もっと要員を増やせ！

仕業検査では偽装請負を隠すためなのか、SEKとJRとの連携・連絡がとても面倒くさくなっており、仕事が非常にやりづらくなっています。例えばSEKの作業者がすぐ横にいても直接伝達できず、いちいちSEKの「責任者」に電話をして伝えているのです。また、SEK作業者は次にどこで何をするのか何度も無線で責任者に報告しています。非常に作業性が悪い状態がつくり出されています。

また、この間JRもSEKも要員を減らす一方で仕事の量がどんどん増えて、仕事が終わるとくたくたになっています。しかもSEKでは作業が重なったりすると所定の作業要員が減らされてしまうケースが常態化しています。しっかりと適正な要員数を確保すべきです。

サービス労働はダメ！

SEKでは、サービス労働や休憩時間の変更が当たり前のように行われ、休憩時間中もあれこれと規制がされています。以前から問題となっている労働時間外の始業点呼前の鍵や工具の準備も、依然として続いています。また、車内検査業務が新たに増えたにもかかわらず、手当も何もありません。これではやる気が削がれてしまいます。昨年度の大量退社はその表れなのです。従業員をもっと大事にするべきです。

「出向組合員の労働条件改善に関する申し入れ」は以下の通りです

1. 仕業検査に関する事項について

- (1) 作業調整や物品手配等でSEK責任者とJR当直との連携が悪く、作業が円滑にいかない場合があるため、相互の連絡徹底をはかること。また、SEK責任者には仕業検査経験者を充てること。
- (2) SEK作業者とSEK仕業責任者との無線連絡が多すぎるため、簡素化すること。
- (3) 第一検修庫11・12番線のサービスデスクに、蛍光灯置き場を設置すること。
- (4) 作業が輻輳した場合、現行体制では対応出来ない。作業者の応援要員を配置すること。
- (5) 作業者は、JRが屋根上点検時は下で待機しているが、スリ板取替えが発生してから移動するとその分時間が掛かり、作業性が悪い。作業者独自の判断で屋根上点検通路に登ることを認めること。
- (6) 仕業検査の室内検査業務に対する手当を新設し支給すること。
- (7) 仕業検査の出勤点呼が15時50分であるが、点呼前に鍵や工具の貸し出し準備等を行っている。点呼後に準備できる体制にすること。
- (8) 第二検修庫1・2番線で、B編成の仕業検査を施工した際110Wの蛍光灯取替作業が非常に困難かつ危険を伴う。よって第二検修庫1・2番線ではB編成の仕業検査を施工しないように、JR会社に要請すること。

2. 修繕班に関する事項について

- (1) 空調熱交清掃作業で、所定作業者は8名であるが6名作業が常態化している、必要な要員を確保すること。

3. その他

- (1) 工具、器具、ウエス、洗剤等の予備品が無いためすぐに補充できない。速やかに補充できるように予備品を置くこと。

以上



大井基地で働くみなさん!!

安全と健康を守って働きやすい職場環境を目指して、

私たちと一緒に声を上げましょう!!

連絡先(新幹線地本) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-6-5 TEL03-3201-0350
ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/jrcushinkansen2/right.html>
メールアドレス jrcushinkansen@yahoo.co.jp